

**2022年3月期
決算補足説明資料
(連結)**

2022年5月10日

株式会社テセック

< 2022年3月期実績 >

- ・ 売上は前期比2.2倍、営業利益17.5億円(黒字転換)
- ・ 部品不足、生産長納期化のなか受注残高は過去最高
- ・ 業績上振れにより期末配当金は予想比20円増の80円

< 2023年3月期予想 >

- ・ 売上9%増 & 営業増益を予想(想定レート115円/USD)
- ・ 中期計画に基づき研究開発、基盤変革等に成長投資
- ・ 総還元性向35%を目安に株主還元(配当は70円予想)

業績推移 (通期)

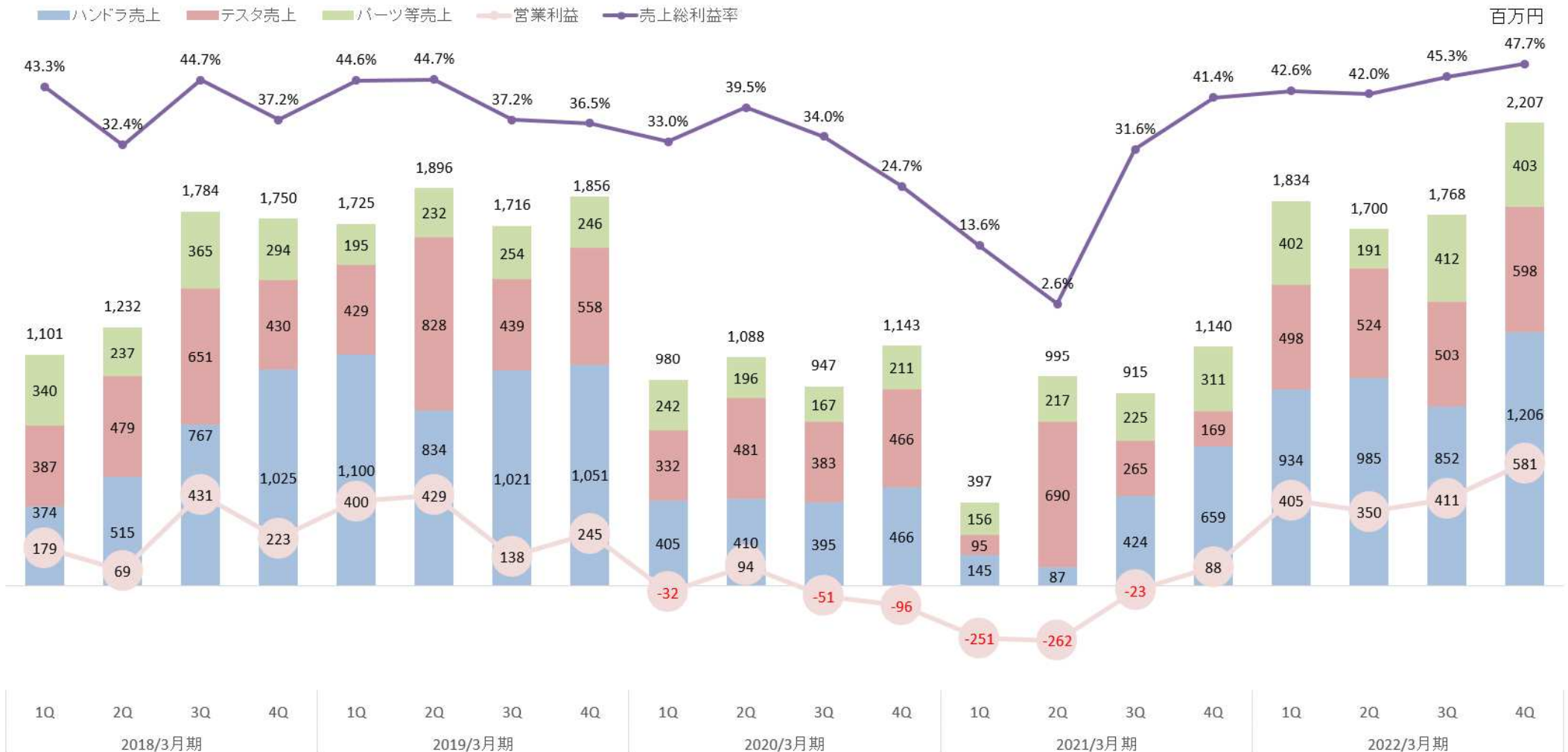
- ・ 好調な受注を受け、売上は前期比約2.2倍、売上総利益は4倍に拡大
- ・ 営業利益は3期ぶりの黒字転換 (前期は棚卸資産評価損3.7億円を計上)
(百万円)

	2021年3月期	2022年3月期		
	通期	通期	対前期	
			増減額	増減率
売上高	3,449	7,512	+4,062	+117.8%
売上総利益	842	3,348	+2,506	+297.7%
売上総利益率	24.4%	44.6%	+20.2p	
販管費	1,290	1,600	+310	+24.1%
営業利益	▲448	1,748	+2,196	—
営業利益率	▲13.0%	23.3%	—	
経常利益	▲308	2,065	+2,374	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲290	1,722	+2,012	—
受注高	5,242	10,813	+5,571	+106.3%
受注残	2,899	6,200	+3,301	+113.9%
為替レート	104.4	110.6		
研究開発費	234	240	+5	+2.5%

業績推移 (四半期)

- ・ 売上は3年前の水準まで回復
- ・ モデルミックス改善と円安進行により、利益水準が上昇

売上・売上総利益率・営業利益 (四半期)



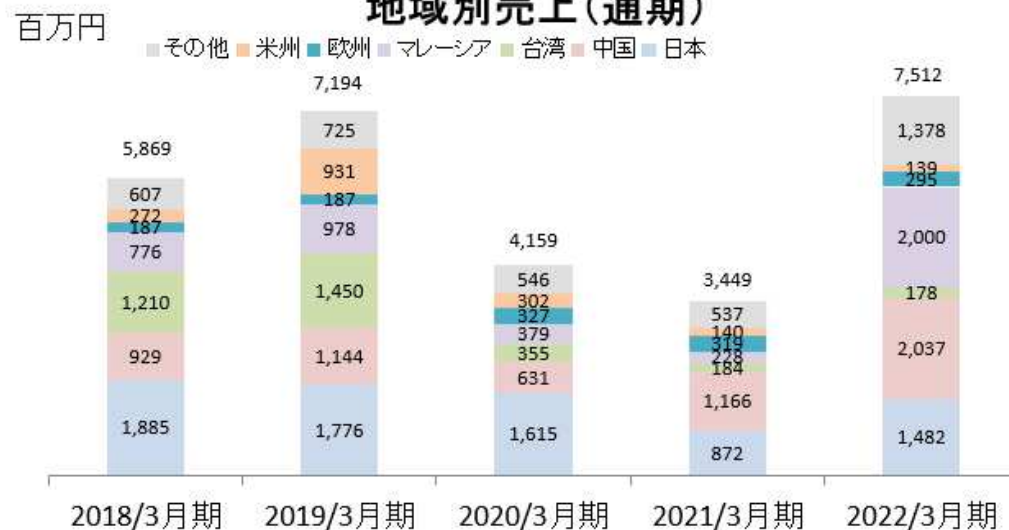
受注高・売上高・受注残高

・ 受注108億円は2000年度以来、受注残高62億円は過去最高水準

受注・売上・受注残(通期)



地域別売上(通期)



受注・売上・受注残(四半期)



製品別売上(通期)

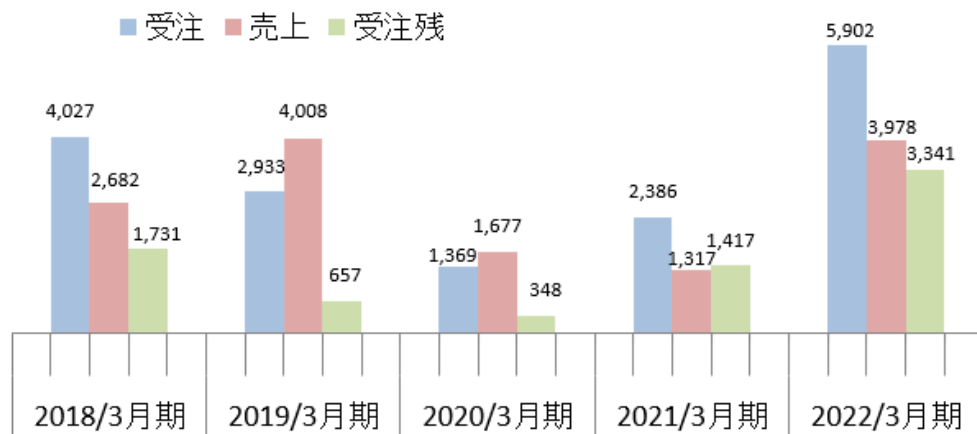


受注高・売上高・受注残高 (ハンドラ)

・ 海外大手顧客の投資が急回復。売上は中国とマレーシアが1/3ずつを占める

受注・売上・受注残(通期)

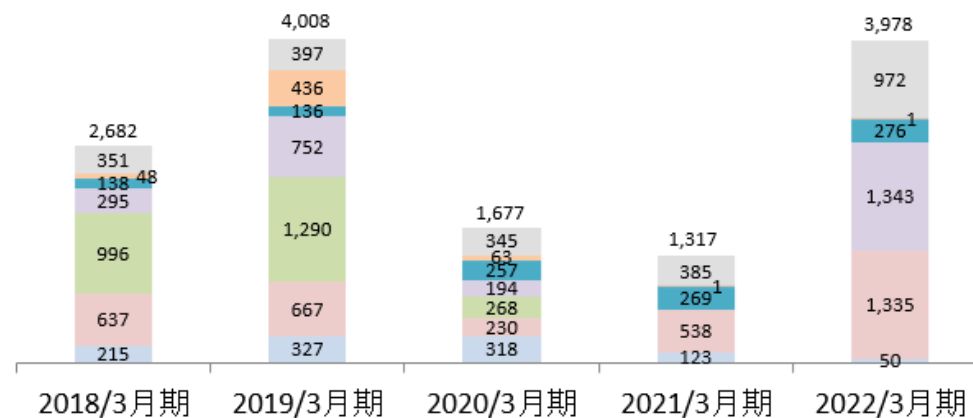
百万円



地域別売上(通期)

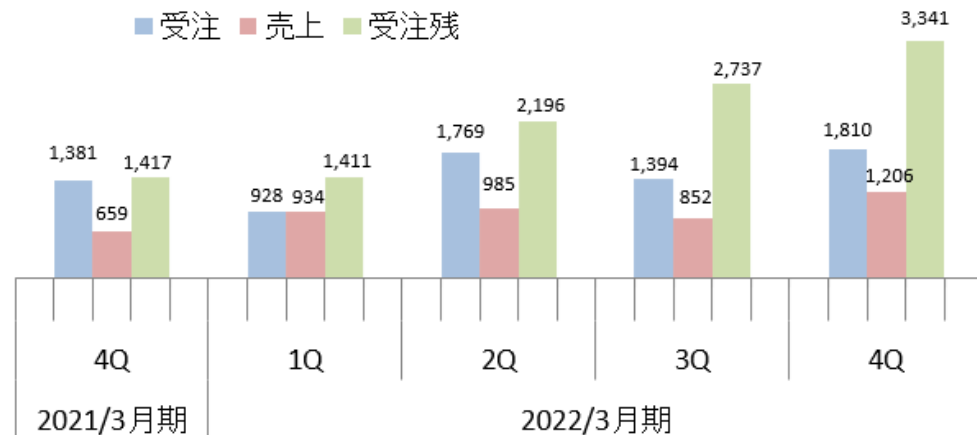
百万円

■ その他 ■ 米州 ■ 欧州 ■ マレーシア ■ 台湾 ■ 中国 ■ 日本



受注・売上・受注残(四半期)

百万円

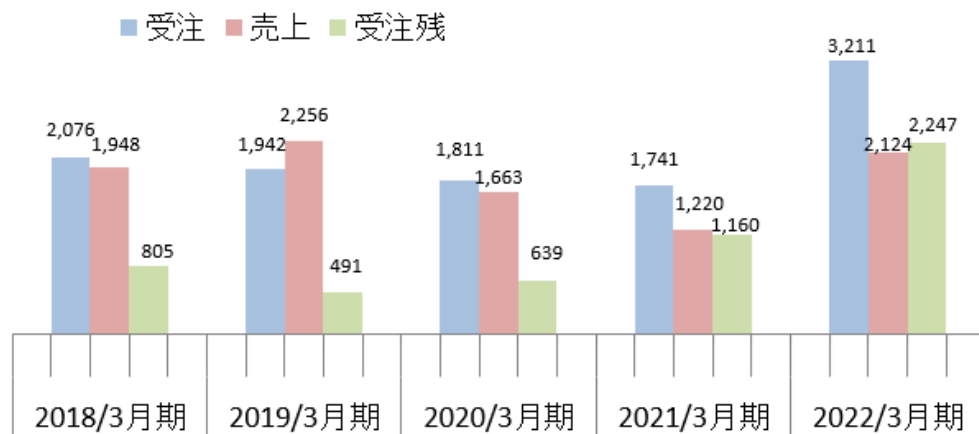


受注高・売上高・受注残高 (テスト)

・ 受注は30億円を上回る。売上は国内が57%、中国が26%を占める

受注・売上・受注残(通期)

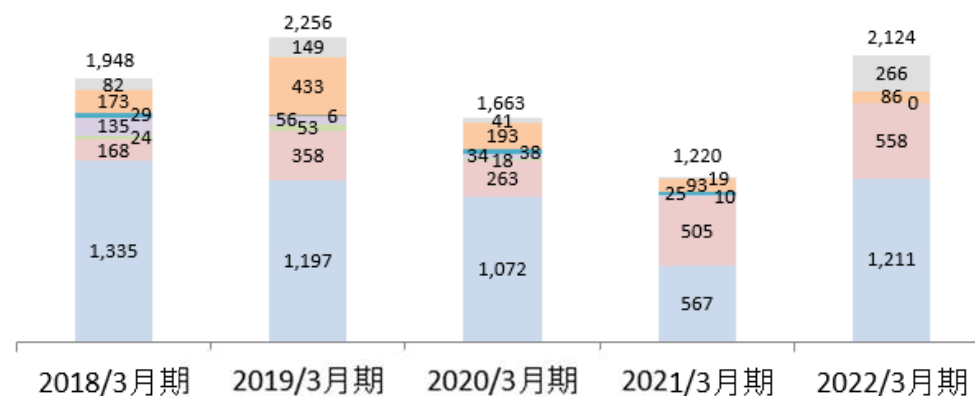
百万円



地域別売上(通期)

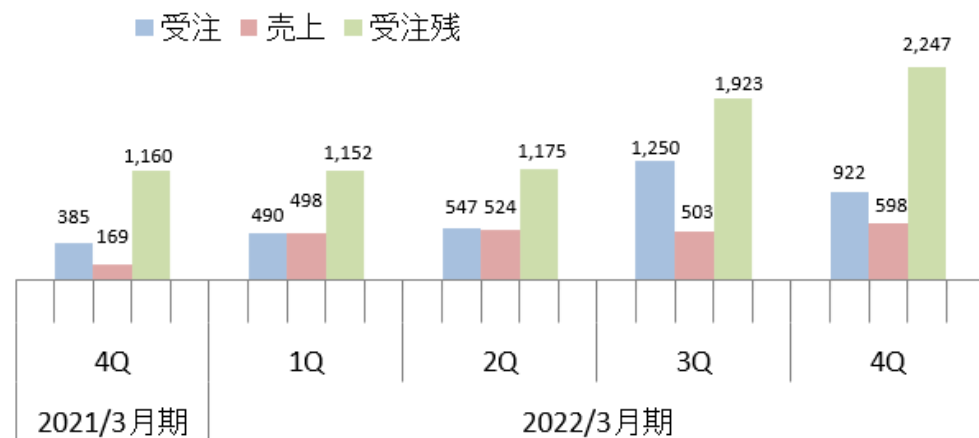
百万円

■ その他 ■ 米州 ■ 欧州 ■ マレーシア ■ 台湾 ■ 中国 ■ 日本



受注・売上・受注残(四半期)

百万円

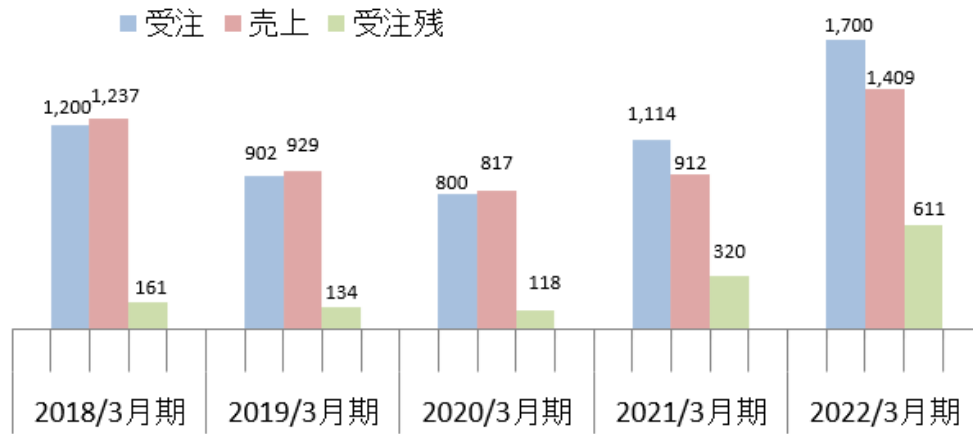


受注高・売上高・受注残高 (パーツ等)

・ ハンドラ用チェンジキットの受注が継続。売上はハンドラの既納入地が中心

受注・売上・受注残(通期)

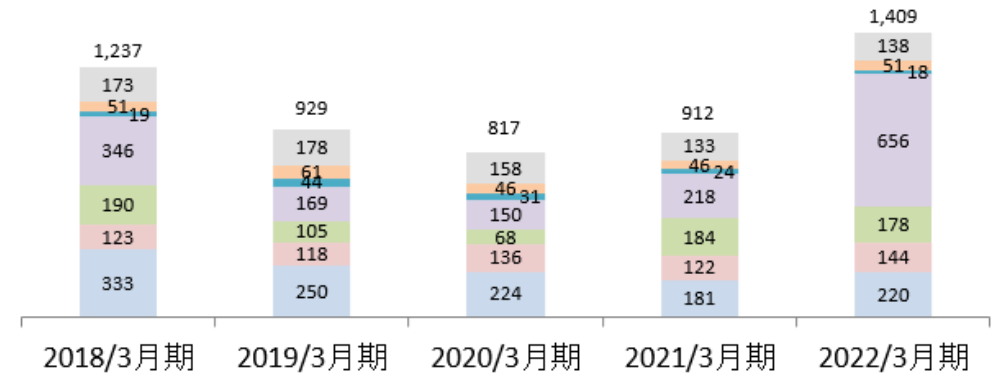
百万円



地域別売上(通期)

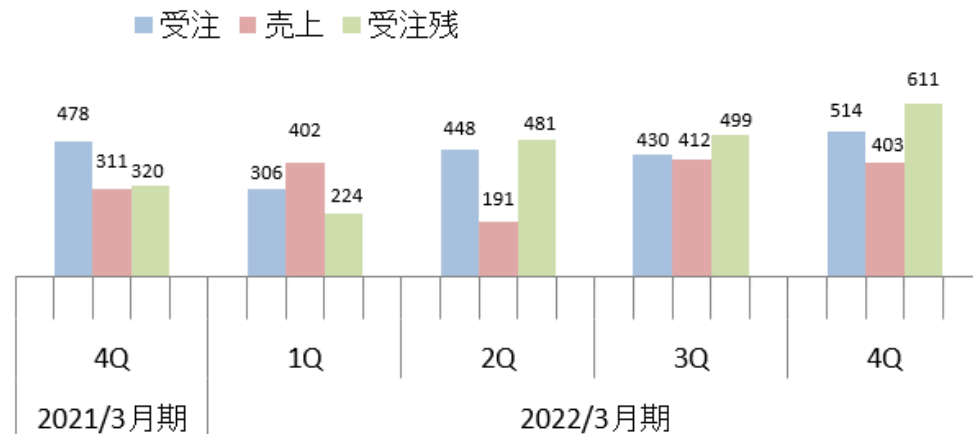
百万円

■ その他 ■ 米州 ■ 欧州 ■ マレーシア ■ 台湾 ■ 中国 ■ 日本



受注・売上・受注残(四半期)

百万円



パーツ等には、以下の内容を含みます。

< 保守部品の販売 >

- ・ハンドラ関連 ... チェンジキット、測子等の消耗部品
- ・テスタ関連 ... リレー、オペアンプ、トランジスタ等

< サービスの提供 >

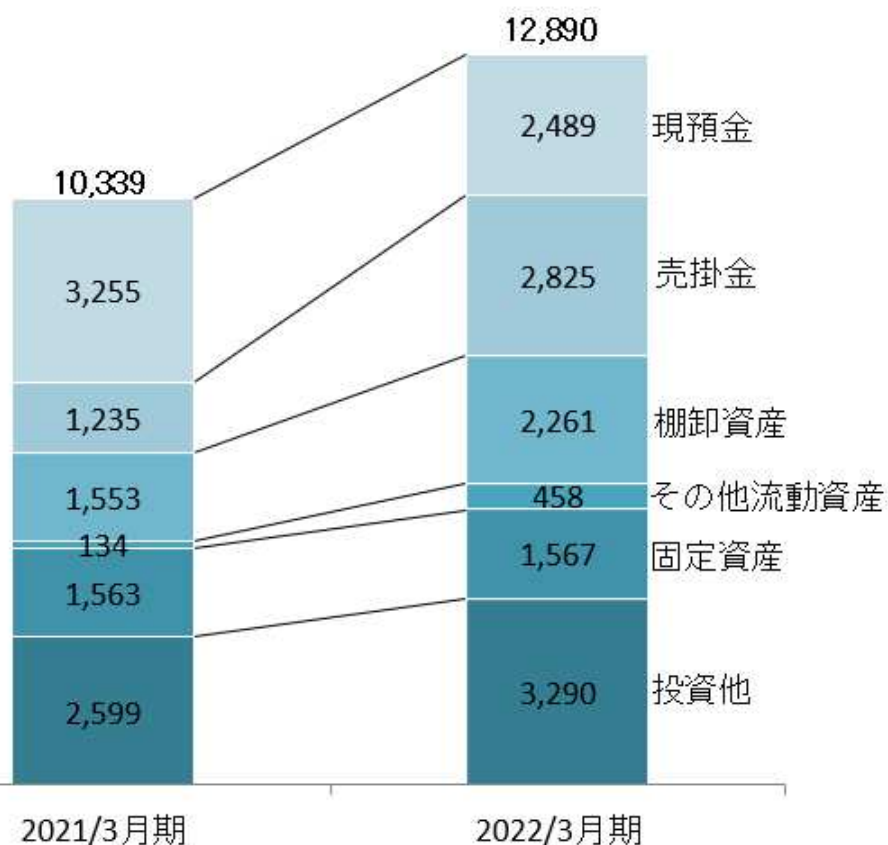
- ・オーバーホール ... リレー等、消耗部品の定期交換
- ・テスタ校正 ... ISO9001準拠の校正作業、証明書の発行

貸借対照表

- ・ 売上の倍増に伴い、売掛金、棚卸資産が増加
- ・ 黒字転換に伴い未払税金が増加。生産量の拡大に伴い仕入債務も増加

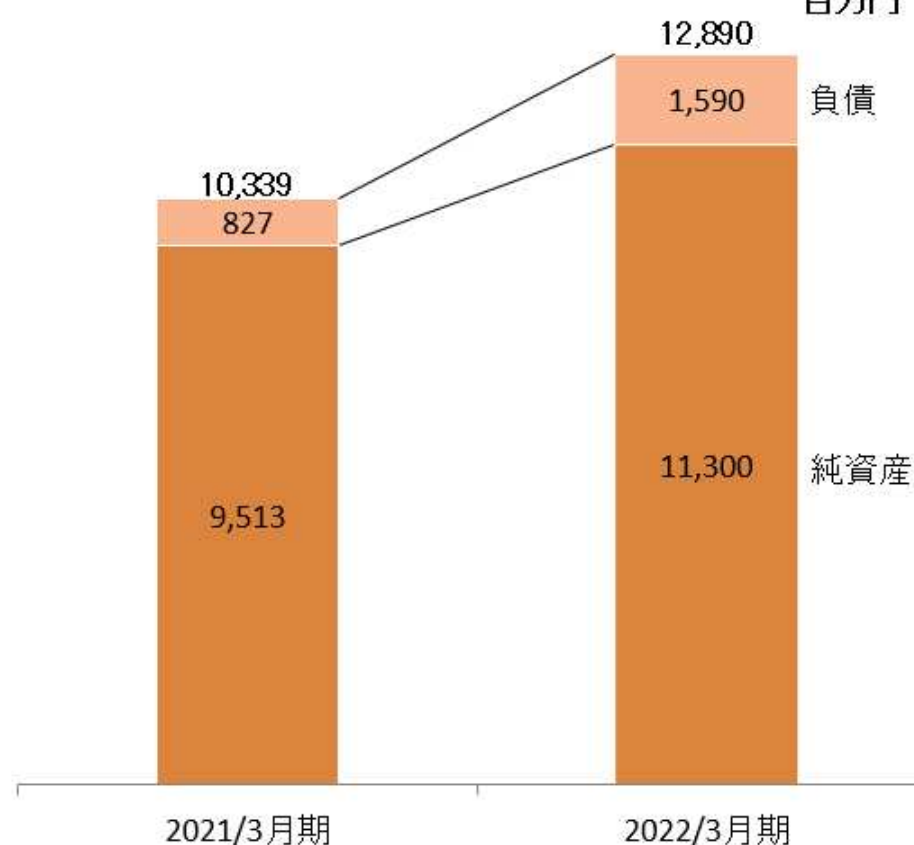
資産

百万円



負債純資産

百万円



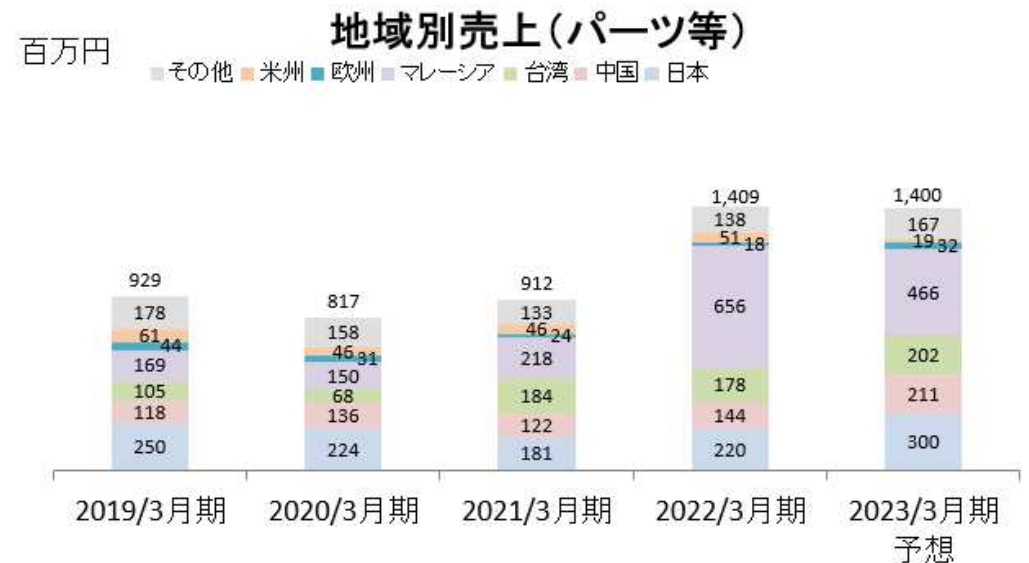
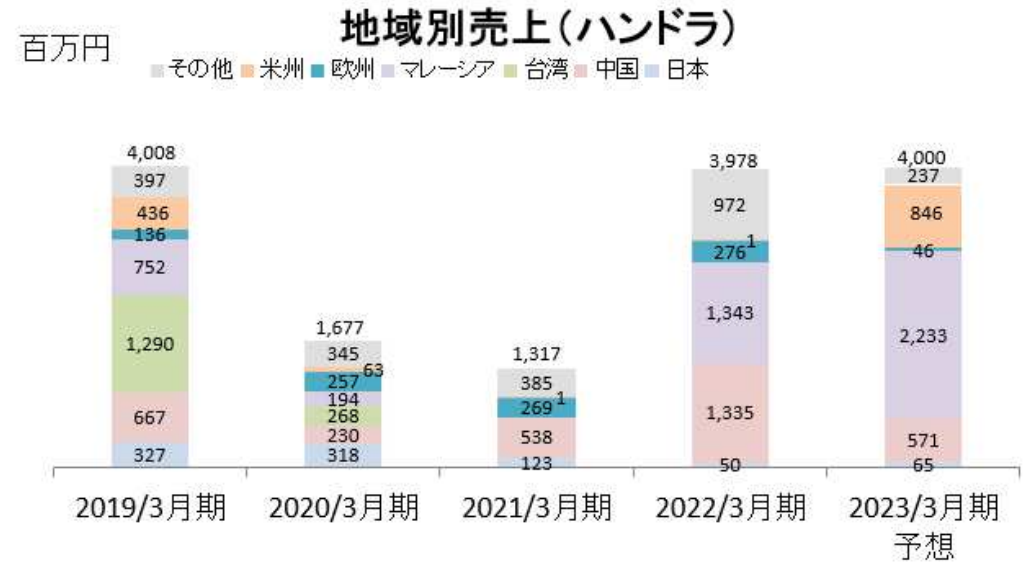
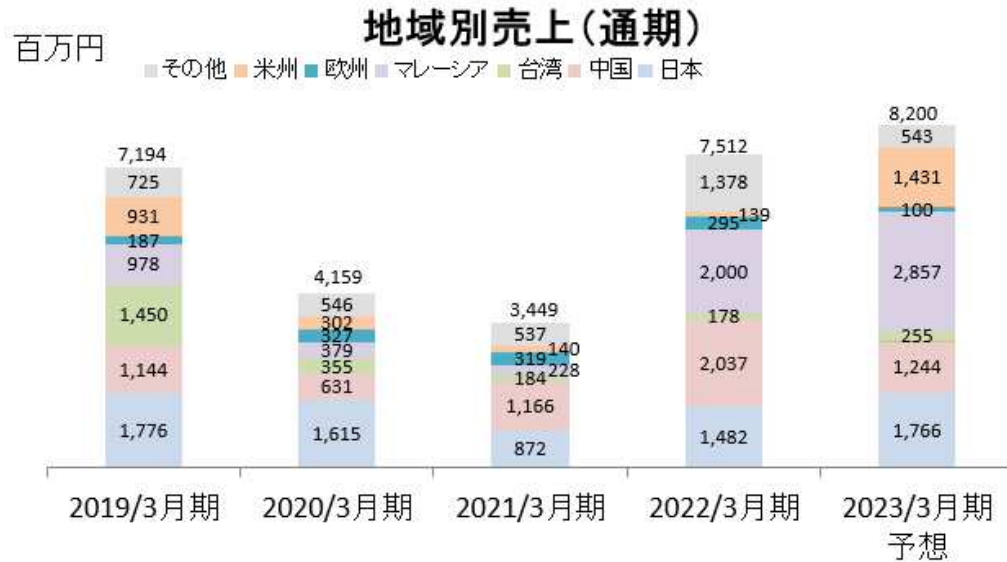
業績予想

- ・ 事業環境の継続を前提として、売上は当期比9.2%増の82億円を見込む
- ・ モデルミックス悪化の一方、円安効果により営業増益(当期比3.0%増)
- ・ 23年3月期 米ドル為替感応度(1円安時の営業増益額/年):約40百万円
- ・ 経常利益、純利益は約2億円の減益(22年3月期は為替差益2.2億円を計上)
(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期		
	通期	通期	対前期	
			増減額	増減率
売上高	7,512	8,200	+687	+9.2%
売上総利益	3,348	3,650	+301	+9.0%
売上総利益率	44.6%	44.5%	▲0.1p	
販管費	1,600	1,850	+249	+15.6%
営業利益	1,748	1,800	+51	+3.0%
営業利益率	23.3%	22.0%	▲1.3p	
経常利益	2,065	1,850	▲215	▲10.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,722	1,500	▲222	▲12.9%
為替レート	110.6	115.0		
研究開発費	240	438	+197	+82.5%

売上高(製品別・地域別)予想

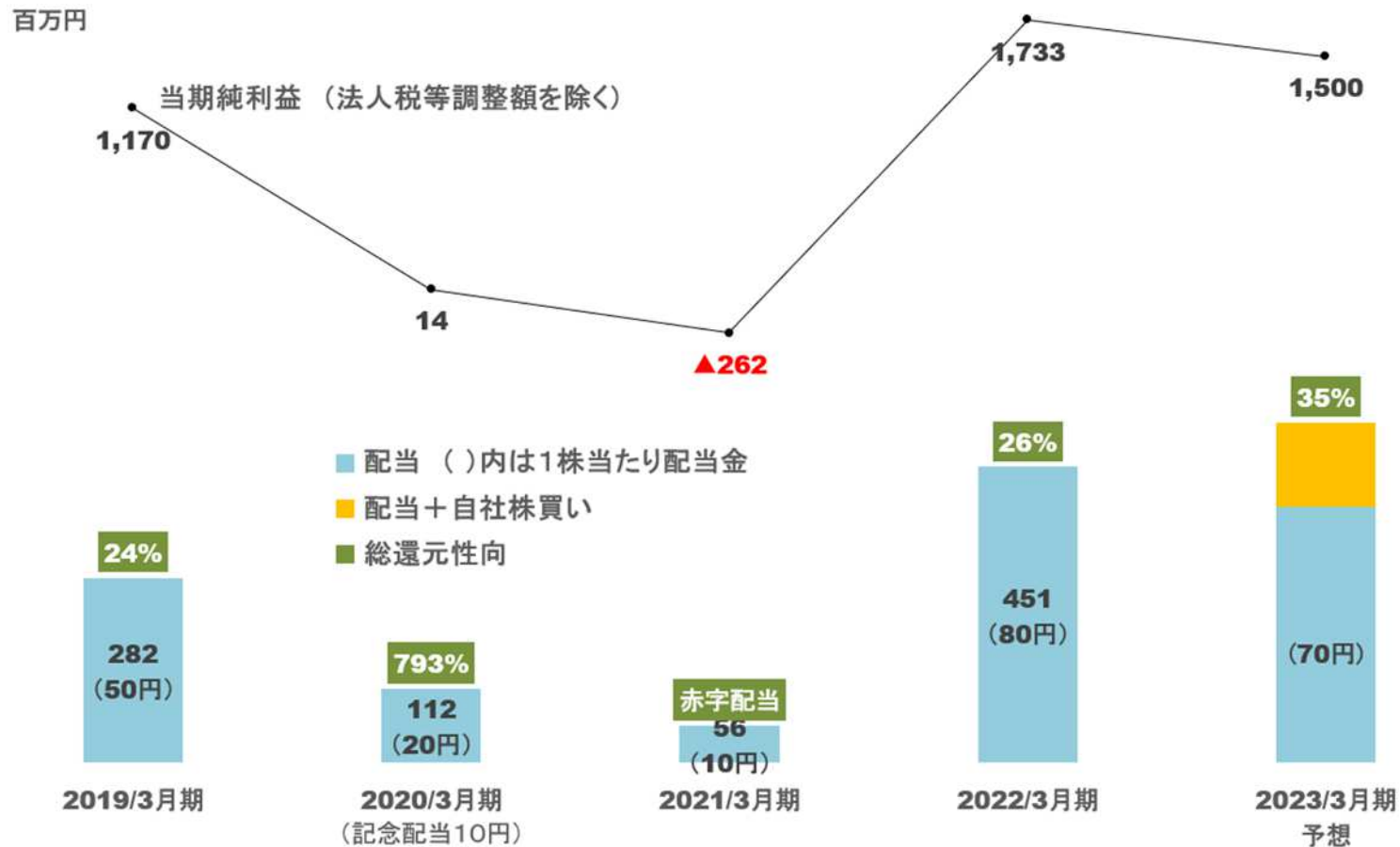
・ 製品別売上は、ハンドラ40億、テスト28億、パーツ等14億を見込む



株主還元

- ・ 22年3月期は為替差益の計上等を受け、予想比20円増の80円配当を決定
- ・ 中期計画期間(23年3月期～25年3月期)は総還元性向35% () を目安とする
- ・ 23年3月期の配当は70円を予想

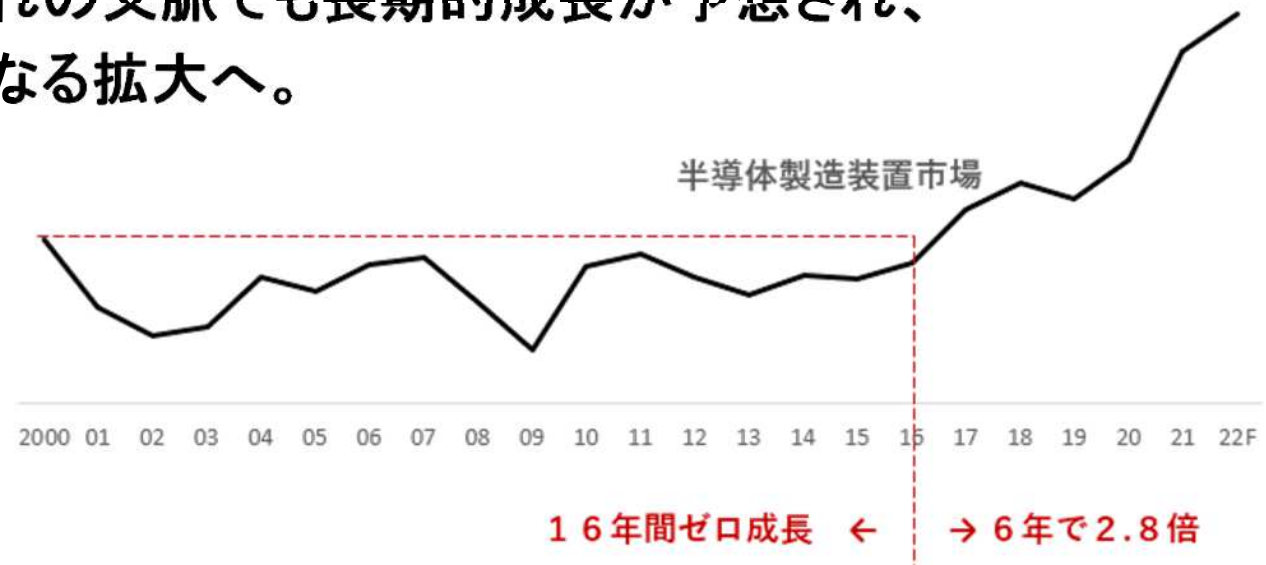
法人税等調整額や特別損益等により当期純利益が大きく変動する場合は、総還元性向の算定上、その影響を調整



事業環境

マクロ環境

デジタル化とグリーン化の方向性で社会変革への投資が加速。
半導体市場はいずれの文脈でも長期的成長が予想され、
製造装置市場は更なる拡大へ。



内部環境

従業員の高齢化と人員減少が進行。
デジタルによる効率化を進めることは当然として、
中長期目線での人財戦略が必須。

中期計画

Mission

優れた半導体検査装置を世界中に供給することで社会へ貢献する

Vision

ソリューションを提供する創造業のトップランナー

中期計画(2022～24年度)

～ **Enjoy2.0** ～

第二創業期 成長への礎

Don't be Afraid

変化をおそれず、新しい事に挑戦します

SHINE

全社員が輝ける会社になります

SUSTAINABLE DEVELOPMENT **GOALS**

テセックはSDGsの趣旨に賛同し
環境、社会との共生を図ります



人財、DX、マーケティング、生産。
4つの基盤を変革することで、事業を成長させる

人財

人材採用を加速。個々の能力を活かし伸ばせる環境を整備

DX

3年以内に基幹システムを含む新たな情報基盤の運用を開始

マーケティング

顧客接点を重層化し、高付加価値製品をグローバルに提供

生産

100億円までストレッチできる柔軟な生産体制を構築

テスト分野

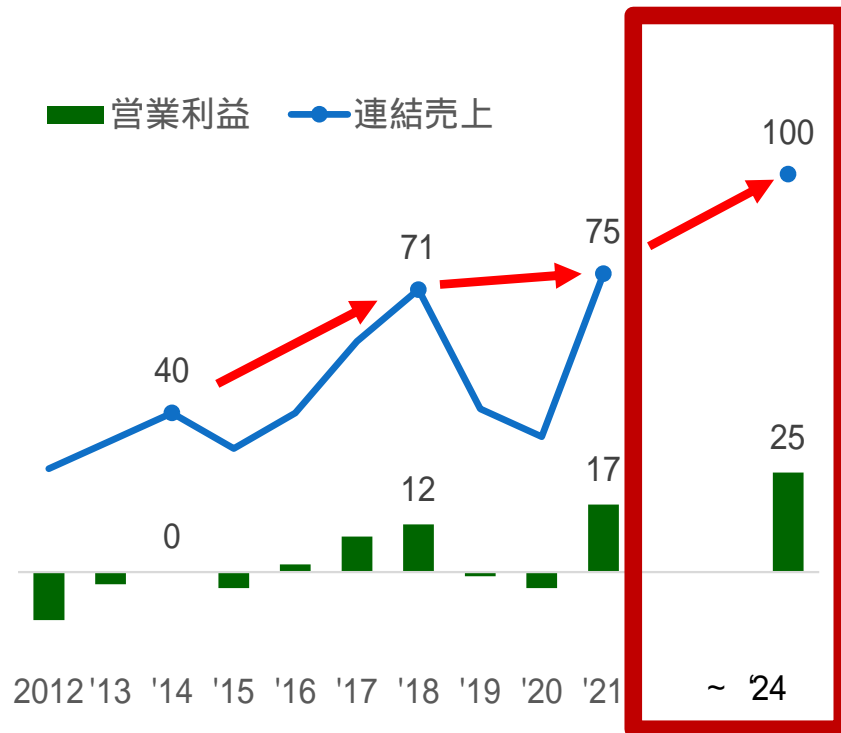
- ・ 国内大手パワー半導体メーカーとの取引維持
- ・ 中国市場での顧客開拓とリピート取引獲得
- ・ ほぼ全てのトップメーカーとの取引実績を活かした欧州大手への拡販
- ・ 新規開発、協業によるターンキーソリューションの提案
- ・ 高電圧・大電流化、工場自動化への対応

ハンドラ分野

- ・ 顧客密着対応による大口顧客との取引維持
- ・ 戦略顧客への主力モデル納入による取引拡大
- ・ QFN、SOPデバイスをターゲットとする製品展開
- ・ 温度環境試験、工場自動化への対応

計数目標

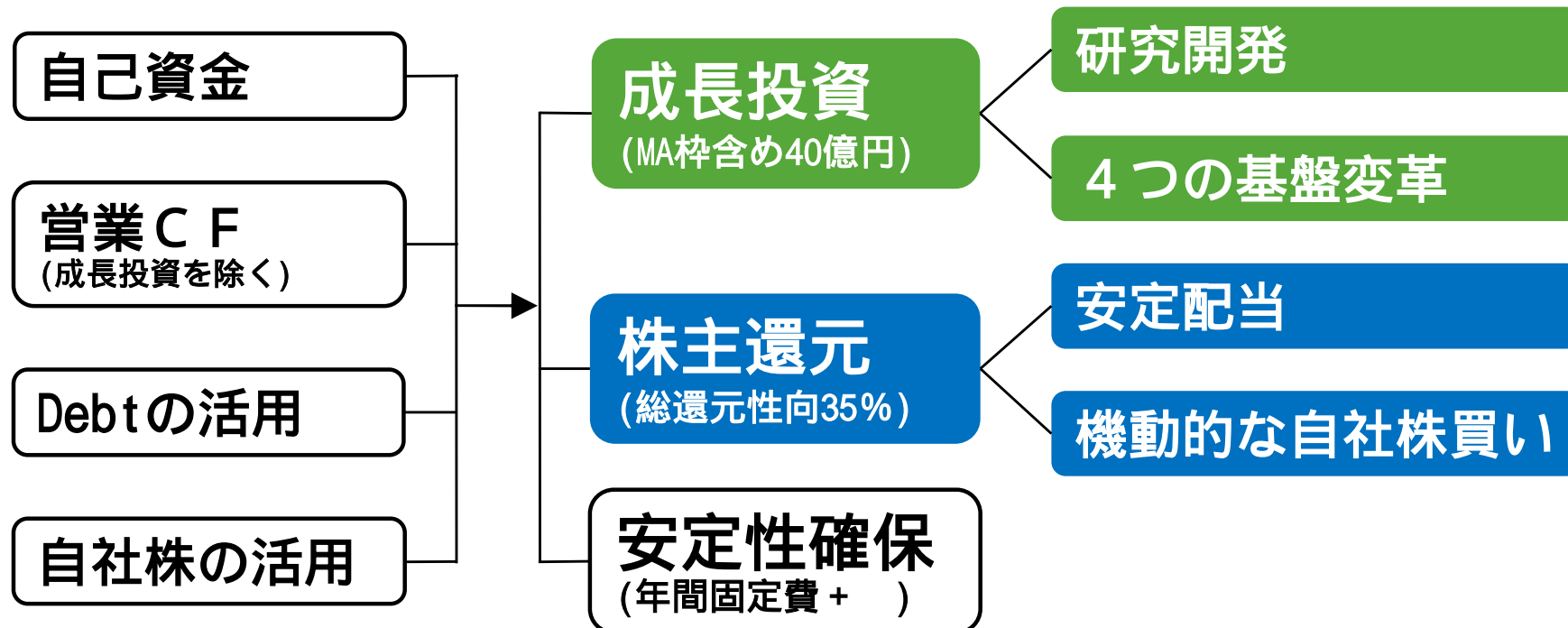
- ・ 売上100億円 (CAGR10%)、営業利益25億円 (同12.6%) へのストレッチ



(億円)	2018年度	2021年度	中期目標
売上高	71	75	100
ハンドラ	40	39	55
テスタ	22	21	30
パーツ等	9	14	15
営業利益	12	17	25

財務戦略

- ・ 第二創業期を再成長の始まりと位置付け、40億円の成長投資枠を設定
- ・ 配当 + 自社株買いにより、総還元性向35%を目安として株主還元
(自社株はM & AやRS等での活用を視野に、当面は消却せずに保有)
- ・ 半導体業界及び当社固有の不確実性を踏まえ、一定の自己資本を維持



ご注意

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。